道徳科学習指導案

日　時　令和〇年〇月〇日（〇）
５校時（13:30～14:15）
学校名　小学校
対　象　第５学年
会　場　教室
授業者　〇〇　〇〇

１　主題名　「責任を果たそうとする思い」　Ｃ　よりよい学校生活、集団生活の充実

２　ねらいと教材名

(1)　ねらい　なりたい役になれずにやる気を失っていたが、道具係も劇を支える大切な仕事であることに気付きがんばろうとするえり子の気持ちを考えることを通して、自分の役割を自覚して主体的に責任を果たそうとする心情を育む。

(2)　教材名　「森の絵」　出典：『新・みんなの道徳　５』　学研教育みらい

３　主題設定の理由

本主題は、小学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）

特別の教科　道徳　内容 Ｃ　主として集団や社会との関わりに関すること 〔よりよい学校生活、集団生活の充実〕〔第５学年及び第６学年〕 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。

を受けて設定した。

(1)　ねらいとする道徳的価値について

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では「Ｃ　主として集団や社会との関わりに関すること」の（16　よりよい学校生活、集団生活の充実)の第５・６年生指導内容項目の中で、「様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること」を取り上げている。

人は個の存在であると同時に、家族や学校、会社などの様々な集団に属して生活を共にする社会的な存在である。個の存在でありながらも、人が集団の一員として共生するためには、働くことが大切である。人が働くということは、単に自分自身が生きていくためだけではなく、社会の一員として自分に課せられた社会的責任を果たして社会に奉仕し、みんなのために役に立つという側面も含んでいる。個が身近な集団に主体的に参加し、責任をもって役割を果たす中で、集団も個も相互に高まっていく。

中でも、小学校段階では、集団のまとまりを意識し、集団への所属感を高めていくことが求められる。そのためにも、友達と一緒に活動する楽しさや、集団の役に立つ喜びを実感させながら、主体的な活動への意欲を向上させることが大切である。

今回の授業を通して、集団の中での役割を自覚することの重要性に気付かせ、率先して責任を果たそうとする心情を育んでいく。

(2)　児童の実態について

学級の児童は、高学年になり、委員会活動やクラブ活動、縦割り班活動などの様々な場面で役割をもち、それぞれの責任を果たそうと励んでいる。特に委員会活動では、率先して役職のある立場に就き、色々な役割に挑戦している姿が見られる。縦割り班活動においても、第６学年児童は全体をまとめる役割、第５学年児童は第６学年児童がスムーズに全体をまとめられるように下級生に声掛けをする役割であることを自覚し、自分からできることを

考えて行動するなど、意欲的に活動している。

しかし、休み時間など自分がやりたいことがあるときには、やらなければならないと分かっていてもなかなか取り組めなかったり、仕方なくという気持ちでやっていたりすることがある。学級の係活動や当番活動においても、自分たちのやりたい活動や仕事であれば進んで取り組んでいるが、そうでない場合には、言われてから活動や仕事に取りかかる姿も見られる。

≪事前アンケート≫　　令和〇年〇月〇日実施　25名

～役割の自覚に関するアンケート内容～

①　学年やクラスなど、様々な集団の中であなたに役割はありますか？

ある	まあまあある	あまりない	ない
19人	6人	0人	0人

～役割の責任を果たすことへの意識に関するアンケート内容～

②　自分の役割の責任を果たすことは大切だと思いますか？

思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
23人	2人	0人	0人

～役割を果たすことに関するアンケート内容～

③　日頃から自分の役割の責任を果たせていますか？

（①で、とてもある／ある　と答えた人のみ回答）

果たせている	まあまあ果たせている	あまり果たせていない	果たせていない
12人	10人	3人	0人

④　③について、なぜそのように思いますか？（自由記述）

しっかり果たせていると回答した児童

・みんなに声を掛けられる前に、自分から行動しているから。
・決まった日（担当日）を忘れることなく活動しているから。
・リーダーとして、色々な確認を忘れずにしているから。
・ふざけずに、真剣に活動できているから。
・役割をしっかりと果たさないと周りの人が困ると意識できているから。
・活動に積極的に取り組んでいるから。

まあまあ果たせていると回答した児童

・たまに(ときどき)活動を忘れてしまうときがあるから。
・言われてからやることが、たまにあるから。
・周りの人のことを考えずに活動していることがあるから。

あまり果たせていないと回答した児童

・休みの日が多いから。
・先生や友達に言われるまでやるべきことをやらないことがあるから。
・遊んでしまい、やらないで終わることがあるから。

上記のアンケート結果より、本学級において、自身の役割を自覚し、役割の責任を果たすことが大切であると感じている児童が9割以上いることが分かる。また、自身の役割について責任を果たしていると実感している児童も9割以上である。児童の自由記述から、しっかり役割を果たすとは、自ら率先して活動することや忘れずに遂行するという認識をもっていることが分かる。その反面、活動を忘れてしまったり、人に言われてから行動したりすることは、しっかり責任を果たせていることにはならないという認識ももっている。本時の学習を通して、率先して責任を果たすことについての理解を深めさせるとともに、率先して責任を果たすことの価値に気付かせ、率先して責任を果たそうとする心情を育みたい。

(3)　教材について

【教材文の概要】

学習発表会で自分がやりたかった女王役をめぐみに譲ってあげたが、やる気が起こらな

いえり子に対して、同じ立場にいる衣装係の文男が、「だれかがやらないと劇にならない」と話す。文男の言動やめぐみの頑張る姿から、このままではいけないことに気付いたえりこは、はじめはやる気のなかった道具係の仕事の意義や責任を自覚し、学習発表会の成功に向けて、気持ちを一新し努力し始めるという内容である。

【教材文活用の視点】

導入

本時の主題について課題意識をもたせ、「責任を果たす」ということに関する教材内容であることを事前に伝える。また、児童が教材内容を把握しやすいように、登場人物のそれぞれの役割や役割に対する思いを確認する。

基本発問１

やりたかった女王役を、めぐみに譲ったえり子の気持ちを考えさせる。

⇒　中心発問時に考えるえり子の気持ちとの違いを明確にするために、役を譲ったことに対して、心の中では納得していないえり子の思いに気付かせる。

中心発問

苦手な役割を、一生懸命にこなす（役割を自覚し責任を果たしている）文男の姿を目の当たりにしたえり子の気持ちを考えさせる。

⇒　やりたい役割や得意な役割ではなくても、一生懸命に取り組む価値や意義を見いださせる。（役割の自覚）ここで気付く価値や意義を、主体的に責任を果たそうとする児童の心情の育成につなげていく。

【教材文の分析】

場面や登場人物の言動	・主人公の心の動き	○基本発問 ◎中心発問	発問の意図 (関連価値)
女王をやりたいと思っているえり子	・　劇の主人公は無理だが、女王ならできるかも。 ・　女王は個性があっておもしろそうだから、やってみたい。		A 個性の伸長
女王の役を、めぐみに譲ったえり子	・　めぐみさんの方が、台詞の読み方が上手。 ・　クラスのみんなも、めぐみさんの女王を見たいはず。 ・　うらやましい。 ・　本当はやりたかったけど、女王の役を譲ろう。 ・　ちょっと嫌だけど、仕方ない。 ・　みんなでやる劇だから、我慢しよう。 ・　心の中では納得できていない。	○　女王の役をゆずったえり子は、どんな思いだったでしょう。	
道具係を選んだえり子	・　絵を描くことは得意だから道具係ならよいかな。 ・　道具係くらいなら、私にもできるかも。		A 個性の伸長
仕事に投げやりなえり子	・　本当は道具係なんてやりたくない。 ・　女王役ができないのは楽しくないな。 ・　やらなきゃいけないっ		

	て面倒だ。 ・　納得していないのに、一生懸命に取り組むなんてできない。		
文男の言葉に黙ってしまうえり子 図工室のドアをそっと閉めるえり子	・　自分の仕事も誰かがやらないといけない。 ・　自分も責任をもってやらないと劇は成功しない。 ・　文男さんは文句も言わずに頑張っている。 ・　苦手なことなのに、こんなに一生懸命に。 ・　文男さんは自分の役割を理解している。 ・　文男さんは、劇を成功させるために自分のすべきことが分かっている。 ・　私は、文男さんのように自分がやらなければいけないことを分かっていない。 ・　文男さんは、みんなで劇を成功させたいという目標をもっていたから、努力している。	◎　図工室のドアをそっとしめた後、えり子はどんなことを考えたのでしょう。	B 親切、思いやり B 友情、信頼 B 相互理解、寛容 C よりよい学校生活 集団生活の充実
音響効果係に励むめぐみの様子を見たえり子	・　めぐみさんも、女王役だけではなくて、音響の仕事にも一生懸命に取り組んでいる。 ・　与えられた仕事に全力で取り組んでいてすごい。 ・　私も、文男さんやめぐみさんのようにもっと頑張らなきゃいけない。		B 相互理解、寛容 C よりよい学校生活 集団生活の充実
森の絵をのびのびと描くえり子	・　一人一人が、自分の役割を一生懸命に取り組むことですてきな劇にすることができる。 ・　一人一人が、自分の役割を果たすことが大切。 ・　同じ目標に向かって、みんなで協力すると気持ちがよい。 ・　みんなが責任を果たすことは、みんなの目標を達成することに繋がっていく。 ・　私もみんなのために与えられた役割に全力で取り組もう。		B 親切、思いやり B 友情、信頼 B 相互理解、寛容 C よりよい学校生活 集団生活の充実

4　年間指導計画における位置付け

○12 月…主題名　「責任を果たそうとする思い」
教材名「森の絵」
C　よりよい学校生活、集団生活の充実
なりたい役になれずにやる気を失っていたが、道具係も劇を支える大切な仕事であることに気付きがんばろうとするえり子の気持ちを考えることを通して、役割を自覚し、責任を果たす大切さに気付かせ、自分の役割を自覚して主体的に責任を果たそうとする心情を育む。

5　指導に当たって

(1)　課題意識を高め、自分事として主体的に考えようとする導入の発問の工夫

導入時に、事前アンケートの結果を大型ディスプレイに写し、学級全体で共有する。

＜発問例＞　責任を果たすことは大切だと思っているのに、日頃から役割の責任を果たすことができていないのはなぜでしょう。

・　思ってはいるが、行動できていない現状に気付かせ、このままでは良くないという意識を児童にもたせる。

＜発問例＞　自分の役割の大切さを理解している人が、進んで責任を果たせばよいのでしょうか。

・　自身の役割に納得していたり、役割の大切さ（意義や価値）を理解していたりする人だけが、進んで責任を果たすのは間違っていることに気付かせる。

高めたい課題意識

『責任を果たそうとする思いとは?』

責任を果たすことが大切であると思う気持ちと、大切に思っているが率先して責任を果たせていない現状の両面に触れ、児童自身の思いと行動が乖離していることに気付かせる。率先して責任を果たしていくためには、行動を起こす基となる思いをもつ必要がある。そこで、本時では率先して責任を果たすという行動の基となる思いを考えていきたい。

(2)　児童の考えを深め、一貫性のある発問構成の工夫

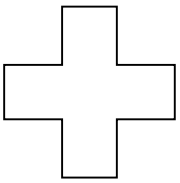
＜基本発問１＞　絵筆を持つ手に力が入らないえり子は、どんな思いだったでしょう。

・　心の中では納得できていないえり子の気持ちを押さえる。

＜補助発問＞　「だれかがやらないと、げきにならないじゃないか。」と文男に言われたえり子は、どんなことを思っていたでしょう。

・　「このままでは良くない。」など、えり子がこれまでの自身の行動や心と向き合い始めたことを押さえる。

＜中心発問＞　図工室のドアをそっとしめた後、えり子はどんなことを考えたのでしょう。



・　文男の思いにも着目することで、どんな役割でも、みんなのために責任を果たすことが大切であることに気付かせる。

・　文男の責任を果たそうとする思いに気付いたえり子の気持ちを考え、えり子自身が役割を果たすことの大切さに気付いたことを押さえる。

＜補助発問＞　えり子は、文男のどんな思いに気付いたのでしょう。

・　苦手ではあるが、衣装係も劇の成功には欠かせない役割であり、文男は自分の役割の大切さを自覚していることに気付かせる。

(3)　自己を見つめ、生き方についての考えを深める発問の工夫

本時の主題についてより自分事として考えられるように、事前アンケートに立ち返り、展開前段で学びを生かしながら、今後の自身の生活に必要な思いについて考えさせる。

(4)　構造的な板書の工夫

登場人物の概要を明確に提示する場や、中心発問時に児童から出された考えや意見を分類して書きまとめる場、主題に対する考えを書きまとめる場など、それぞれの場を視覚的にわかりやすく整理する。本時では、一貫して児童に主題を意識させたいという思いから、展開後段で出される児童の考えや意見を、主題の隣に書きまとめるような板書の構造にする。

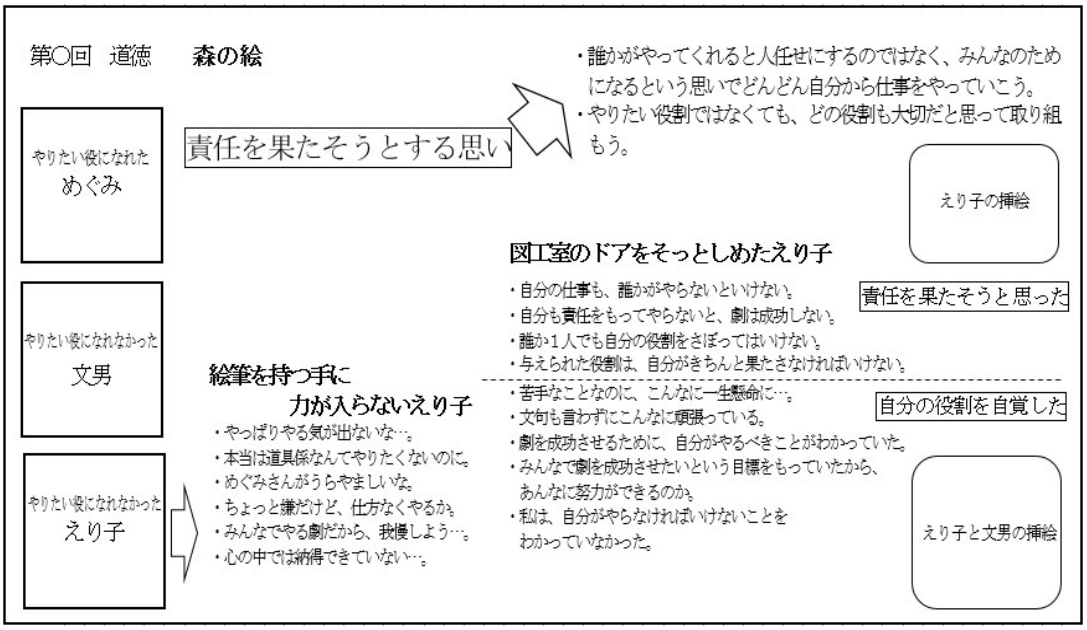
５　本時

(1) 学習指導過程

	○主な学習活動と主な発問　◎中心発問 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ★評価の視点
導入 5分	1　ねらいとする道徳的価値ついて考える。 （事前アンケートの結果を提示） ○　責任を果たすことは大切だと思っているのに、日頃から役割の責任を果たすことができていないのはなぜでしょう。 ・　自分がやらなきゃいけないという意識が足りていないから。 ・　自分がやるということを忘れてしまう。 ・　誰かがやってくれると、人任せにしてしまっている。 ・　一人一人が自分の役割の大切さを理解していないから。 ・　やらなきゃいけないことより、そのときにやりたいことを優先してしまっているから。	◇　アンケートの結果から、責任を果たすことの大切さは理解しているものの、実際に行動できていない現状に気付かせ、その理由を考えさせる。 ◇　責任を果たすという意識は、みんながもつ必要があることを押さえる。 ◇　自分たちの日頃の様子を振り返らせながら、ねらいとする道徳的価値に対しての問いをもたせていく。

展開 37分	2　教材「森の絵」を読んで話し合う。 ○　絵筆を持つ手に力が入らないえり子は、どんな思いだったでしょう。 ・　やっぱりやる気が出ないな。 ・　本当は道具係なんてやりたくないのに。 ・　めぐみさんがうらやましいな。 ・　ちょっと嫌だけど、仕方なくやるか。 ・　みんなでやる劇だから、我慢しよう…。 ・　心の中では納得できていない…。 ・　本当は女王役をやりたかったのにな。 ・　道具係は嫌だな。 ◎　図工室のドアをそっとしめた後、えり子はどんなことを考えたのでしょう。 役割を自覚することの重要性 ・　苦手なことなのに、こんなに一生懸命に…。 ・　文男さんは、文句も言わずにこんなに頑張っている。 ・　文男さんは、劇を成功させるために、自分がやるべきことが分かっていたんだ。 ・　文男さんは、「みんなで劇を成功させたい」という目標をもっていたから、あんなに努力ができるんだ。 ・　私は、文男さんのように自分がやらなければいけないことを分かっていなかった。 責任を果たそうとする心情 ・　自分の仕事も、誰かがやらないといけない。 ・　自分も責任をもってやらないと、劇は成功しない。 ・　文男さんは、自分の仕事を納得してやっている。 ・　誰か１人でも自分の役割をさぼってはいけない。 ・　与えられた役割は、自分がきちんと果たさなければいけない。	◇　児童に教材内容を把握させるために、登場人物のそれぞれの役割や役割に対する思いを確認する。 ◇　自分に言い聞かせたが、納得できていないえり子の気持ちに気付かせる。 ◇　「だれがやらないと、劇にならないじゃないか。」と文男に言われた時のえり子の気持ちを問い、えり子が自身の行動や心と向き合い始めたことをおさえる。 ◇　「えり子は、文男のどんな思いに気付いたのか」と問うことで、苦手な仕事ではあるが、自分の役割に納得して、責任を果たしている文男の気持ちに気付かせる。 ◇　「みんなのために」という視点をもたせる。 ★　えり子の気持ちを考えることを通して、役割を自覚し責任を果たすことについて多面的・多角的に考えることができているか。 （発言・ワークシート）
	3　これまでの生活を振り返り、自分自身の思いや考えを見つめて書く。 （事前アンケート③の結果を再度提示） ○　アンケート③について、もう一度考えてみましょう。 ・「しっかり果たせている」と答えたが、今考えると「まあまあ果たせている」だと思った。自分の役割はあまり自覚できていなかったことに気付いた。 ・　「あまり果たせていない」と思っていたけど、改めて責任を果たせていないことを知った。クラスの為に、自分から係活動をしていきたい。	◇　ワークシートを用意し、自己の生き方について考えを深められるようにする。 ★　責任を果たすことについて、これまでの生活を振り返り、今後の生活に向けての気持ちを育むことができたか。 （発言・ワークシート）
終末 3分	4　自分の役割を自覚し、責任を果たしている様子の写真を見る。 ○　今日の学習テーマ「責任を果たそうとする思い」に関連する写真を見ましょう。	◇　ねらいに関連した教師の体験談を伝え、自分の役割を自覚し、責任を果たすことのよさや大切さを実感させる。 ◇　６年生が、最高学年として学校のために役割を担っている写真を提示する。

(2)　板書計画



(3)　評価

ア　えり子の気持ちを考えることを通して、役割を自覚し責任を果たすことについて多面的・多角的に考えることができているか。　（発言・ワークシート）

イ　責任を果たすことについて、これまでの生活を振り返り、今後の生活に向けての気持ちを育むことができたか。　（発言・ワークシート）

(4)　授業観察の視点

ア　児童に問題意識をもたせることができる導入であったか。

イ　ねらいとする価値に迫るために、適切な発問構成であったか。

ウ　構造的な板書は、一貫して児童に主題を意識させることができていたか。

(5)　ワークシート

